

不二速報

発行日 2016年5月23日

第1号 2016年度執行部紹介号



2016年度 執行委員です！
～一年間よろしくお願いいたします！～



○執行委員長 鳥畑 与一（人文社会科学部支部）

昨年の書記長に引き続き、本年度の委員長を務めることになりました人文経済の鳥畑です。法人化1年目の2005年に委員長を務めて以来の昨年の執行部復帰時に、組合員数減少の大きさに驚かされ、何とか増勢に転換したいという思いで一年間取組んで来ました。しかし、「道半ば」も遥かに遠いためもう一年微力を尽くす決意をしました。

法人化以来、静岡大学をはじめ国立大学は大きな試練にさらされてきました。運営費交付金削減が続く中で、人件費は削られ、基盤的な教育・研究も外部資金に依存しなければ維持できない状況となって来ました。昨年の人事管理の混乱は、その象徴的な出来事でした。

外部資金導入のための労力で研究時間が削られ、かつ短期的で不安定な外部資金依存で長期的基礎研究が困難になると同時に研究者やその補助事務員の雇用不安定化も深刻化して来ました。様々な改革による大学組織運営の複雑化は、教員ばかりか事務職員の負担として重くのしかかっており、心身の健康を崩される方が増えています。

また学校教育法の改正で教授会権限が縮小し学長への権限集中が進む中で、大学自治の空洞化が進んでいるように思います。いったいどこで重要な決定が行われ、今静岡大学はどの方向に進もうとしているのかへの不安が高まっているのではないのでしょうか。

このような中で、全部局に支部を有し、全学的な視野で情報を収集分析することができる、そして一人一人の教職員が抱える問題を要求課題として団体交渉を通じて学長等と直接交渉できる教職員組合の果たす役割は非常に高まっていると思います。教職員組合が、大学の良識ある建設的オピニオンリーダーとしての役割も、大学のチェック&バランス機能の発揮に貢献すると思います。

しかしながら、法人化以降の多忙化等のなかで教職員組合がその期待に十分応えることができているのか、率直に向き合う必要があるとも考えています。そのバロメーターが法人化以降の組合員減少として表れているのではないのでしょうか。何とかして、存在価値のある、信頼され頼りにされる教職員組合として一歩でも前進することで、組合員減少に歯止めをかけ、年々大きくなっていく土台を固めたいという思いでいます。一人一人が可能な範囲で力を出し協力し合えれば可能だと思います。微力ではありますが、宜しくお願いします。

静岡大学教職員組合
<http://shizudai-union.net/>

静岡：
〒422-8529
静岡市駿河区大谷 836

TEL/FAX:
054(236)0173 (直)
2790 (内線)
E-mail : suu@jade.dti.ne.jp

浜松：
〒432-8561
浜松市中区城北三丁目 5-1

TEL/FAX:
053(475)9035 (直)
3910 (内線)
E-mail : suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp



目次：

2016 年度執行委員 自己紹介	1～3
5.1 メーデー報告	4

○副執行委員長 早川 泰弘 (工学部支部)

この度中央執行員会の副執行委員長を担当することになりました工学部支部の早川泰弘です。今まで、中央執行員会では、書記次長、副委員長や執行委員を担当してきましたが、再び役を担うことになりました。静岡大学に長年勤めておりますが、近年は組織改組の変化が早く、また複雑化しており、教職員の負担は増すばかりです。非正規職員の数も増え、仕事の量は同じでも手当など賃金格差が広がっています。教員も教育研究活動の他に管理運営、社会貢献、国際交流の責務を果たしており、休みなく働いている状況です。文部科学省の「選択と集中」「運営費交付金重点支援」政策は、基盤的な教育・研究費の削減をもたらし、競争的経費の獲得のため、多くの教職員が疲弊しています。組合は過半数代表となっておりませんが、執行部と団体交渉できる唯一の組織ですので、少しでも組合員の実情を改善できるよう、訴えていきたいと思ひます。また、静岡大学のみでは解決できない課題も含まれておりますので、全大教を通じて、政府に対して政策転換を求めることも必要と思ひます。

1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

○執行委員 中條 暁仁 (教育学部支部)

教育学部の中條です。専門は人文地理学です。

支部員を何度か務めてきましたが、組合についてはまだよく分からないことが多いのが実態です。

勉強しつつ、微力ながら皆さまに貢献できるよう努力していきたいと思ひます。

宜しくお願いいたします。

**○執行委員 塩田 真吾 (教育学部支部)**

教育学部の塩田真吾です。

静岡大学に着任してから7年が経ちました。

これまで教育学部の支部委員を1年間務めさせて頂きましたが、執行委員は初めてとなります。いろいろと勉強させていただきながら、少しでも貢献できるよう頑張りたいと思ひます。

1年間よろしくお願いいたします。

○書記長 赤田 信一 (教育学部支部)

本年度、書記長を務めさせていただくことになりました教育学部の赤田信一です。不慣れな所が多々ありますが、執行委員長の鳥畑先生、また執行委員・組合員の皆さま方から様々なご教示をいただきながら、少しでもお役に立てるよう努力して参りますので、一年間、どうぞよろしくお願い致します。

専門は学校健康教育でありまして、子どもたちが健康的で安心しながら成長できる学びの場の創出について研究しております。その知見を生かしながら、対象は異なりますが、労働者が健康的で働きやすいと感じられる職場環境づくり、また、心の平穏が保たれる中で安心感・充実感を得ながら働くことができる職場環境づくりに、微力ながら励みたいと思ひています。健康・安全・安心をキーワードにしながら、静岡大学教職員の労働者としての権利を守っていくお手伝いが出来れば幸いです。

ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

○執行委員 朱 曄 (人文社会科学部支部)

静岡大学法務研究科の朱曄でございます。本年度組合の執行委員を務めさせていただきます。全くの未経験者なので、様々な助言をいただきながら、微力を貢献させていただきたいと存じます。

○執行委員 原田 伸一郎 (情報学部支部)

情報学部支部の原田です。

私が教職員組合に加入したのは、前の職場で「組合の成果にただ乗りしている」という声が聞こえたからでした。損得勘定(コスパ)ではなく、モラルが問われたような気がして、本学に着任してからは(と申しても出足が遅く数ヶ月後ですが)、迷いなく加入することにしました。

若輩者ではありますが、これまでの教職員組合の成果に対し、自身も責務を果たすことで貢献したいと思ひます。よろしくお願い申し上げます。

○執行委員 貴田 潔 (人文社会科学部支部)

人文社会科学部社会学科の貴田です。専門は歴史学で日々は学生たちにその方法論を教えています。早くも1年が経ち、着任2年目となりました。

さて、今年1年間は組織法制を担当させていただくことになりました。みなさまにはお世話になりつつ、昨年1年間を過ごして、教育・研究の現場を取り巻く現状の厳しさについて少しずつ実感が持てるようになってきました。教職員にも、あるいは学生にも、大学という場の役割は何なのかという問いがそれぞれのレベルで突きつけられているような気がします。

私は小さな社会のなかの小さなコミュニティーでしか生きていません。外から見れば、風でも吹けば飛ぶような、まるでささやかな箱庭のなかにしか見えないかもしれません。しかし、せめて私たちのそうした身の回りの環境が息苦しくなっていないよう、わずかではありますが、力を尽くしていきますので、どうぞご理解をよろしくお願い申し上げます。

○執行委員 鈴木 久男 (工学部支部)

本年度、工学部支部・執行委員を務めさせて頂くこととなりました電子工学研究所・鈴木久男です。昨今は、静岡大学を取り巻く環境が非常に厳しくなっていると感じます。組合員や大学教職員の生活を守ることが組合の目的かと思いますが、そのためにはまず、静岡大学が文科省に評価されることが不可欠だと思います。ABPの教育体制をみても、とても正しい教育ができるとは思われません。先日、文科省から各国立大学の評価が公表されましたが、静岡大学は運営費交付金が8%もカットされました。これはゆゆしき問題で、まずは大学の運営体制を糺す必要があると思っています。将来のまともなグランドデザインなしに未来があるとは思われません。個別の問題も大切とは思いますが、まずは教職員の環境改善に向けて、大学執行部が体制を整えられる様に努力しているかどうかを追求したいと思っています。



組合「お試し加入」制度 実施中です！

2016年4月～6月の期間中に対象の方がご加入くださった場合、「6ヶ月間組合費無料」となります。

※ 対象は在職期間2年程度の方

※ 6ヶ月後に加入を継続いただけるか確認のご連絡をします。

6月の組合定期大会の議決権はありませんが、それ以外の不二速報配布やメールニュース配信などのサービスは、組合員の方々と同じです。

未組合員の方にお声をおかけいただき、組合にお誘いください！

「この機会に『組合体験』、してみませんか？」

2016 年度定期大会日程決定！

6月30日(木) 16:00～

そうだ!こんなときだから

5/1 メーデーに参加しました!

静岡: 常盤公園噴水前広場 浜松: 浜松城公園中央芝生広場

静岡市常盤公園噴水前広場で開催されたメーデーに委員長、書記長、過半数代表者含め7名で参加してきました。新緑が目にあふれる5月の青空のもと、県労働組合評議会の林克議長の挨拶、来賓の方々の挨拶、また静岡大学の学生のスピーチの後に、寸劇、デコレーションの表彰、そしてメーデースローガンとメーデー宣言の確認が行われました。集会参加者は約500名ということでした。組合顧問でもある西ヶ谷弁護士にもご挨拶ができ、最後には市内デモ行進にも加わりました。デモ行進では、安全保障関連法に関する問題点、格差社会の是正、労働環境の改善、最低賃金のアップ、社会保障制度の拡充、不公平税制の見直し等々、様々な課題の改善を呼び掛けました。街を歩く市民の方々の反応も好意的であり、有意義なデモ行進の取り組みとなりました。労働者の権利を守り、平和と安全を願う組合の原点が問われる今、静大教職員組合でも様々な取り組みを行いたい決意を新たにしたい一日でした。

(書記長 赤田)



浜松城公園中央芝生広場で開催された第87回メーデーに、工学部支部と情報学支部から5名が参加しました。今年のメインスローガンは「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう!」でした。非正規労働者が働く者の4割を超え、ワーキングプアが1000万人以上に達するなど、格差が広がっています。静岡県西部地区の労働者が集い、団体的自衛権の行使容認撤回、自衛隊の海外派兵反対、安保法案廃止、大幅賃上げ実現で景気回復、最低賃金1000円に!、年金・医療・介護など社会保障制度の拡充、原発の再稼働反対などのスローガンを掲げ、集会とデモ更新を行いました。

(副執行委員長 早川)



2016 年度職場実態アンケートのお願い

昨年実施して、結果を団体交渉などに活用させていただきました「職場実態アンケート」を今年も行います。全教職員対象のアンケートです。アンケートが届きましたら、ご記入のうえご提出ください。〆切は、6月3日(金)です。